

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人敬英会		
事業所名	グループホーム幸楽の里	【ユニット名:白樺】	
所在地	和歌山県橋本市山内1919-3		
自己評価作成日	平成23年5月1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3071000453&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成23年5月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部の静かな所に隣接され、春には、施設内や、居室からも桜の開花を皆の目を楽しませていますが、耳を澄ませば、鶯のさえずりが聞こえ、冬には、窓より見える木立に積もる、雪景色を楽しむ事が出来ます。自然環境と共生しつつ生活や文化との交流を育み自然のもつ豊かさや潤いのなか、利用者が生きがいを感じ、なじみの顔ぶれと生活できる様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地に位置しており、日々自然の移り変わりが満喫できる。法人の同敷地内には、老人保健施設・通所・通所リハビリ・ケアハウスなどがあり、職員の託児所も併設されている。ホーム内はゆったりとして清潔感があり、落ち着いた雰囲気の中で安らぎのある生活が提供されている。入居者を傍で見守る職員は、本人の意欲を引き出す支援に取り組んでいる。法人グループで働きながら利用できる資格取得支援制度は、職員の仕事への意欲を高め、ひいては日々のケアの質を向上させ、入居者が安心して暮らし続けられる支援に繋がっている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有すべく、玄関に入った所、トイレの壁にはり出しており、人として尊重されるよう、スタッフ皆で、理念を基に頑張っている。	ホーム独自の理念を掲げて、項目ごとに具体的な説明をつけている。説明の内容が多いため、全員の共有につながる意識付けが困難な面がみられる。	理念は日々の実践の根幹となるものであり、簡潔でイメージしやすい表現が望ましい。今一度、職員全体で検討し、共有しやすいものとなることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流とまでは行えていないが、地域の行事(運動会)に参加、又、事業所の行事(クリスマス会、お花見)には来所頂く等、交流の場が広がっている。	地理的に地域住民との交流は難しいが、積極的に交流の機会を作るように努めている。市のシニアカレッジのボランティア数名の定期的な訪問があり、話し相手や行事の手伝いなどの協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の中、特にクリスマス会は、老人会に人達が多く参加下さり、談話、共に時間を過ごす中で、理解して頂いているものと確信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日本大震災を機に、防災について事業所内で出来る事、地域の中での取り組み等話し合いがなされた。談話の中から地域の状況、自施設の状況等、情報の共有に活かしている。	22年度は市の介護保険課々長、区長も交えて隔月に開催している。会議では行事や防災についての提案もだされているが、家族の参加が得られていないこともあり、サービスの改善に繋がる意見は引き出せていない。	行事や報告に終わらせず、会議を活用して幅広い意見を得るためには、本人、家族、住民、他事業者など様々な立場の人の出席が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に来所頂き、種々の報告や取り組みについて説明、市よりの依頼で始まった、シニアカレッジのボランティアさんとの関係も築く事が出来、毎月来所頂いている。	隔月の地域運営推進会議への担当者の参加から信頼関係が築けてきている。市から緊急時の入居要請がある時には、受け入れ体制を整えて協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を初めとする、入り口は夜間のみ施錠としている。身体拘束や言葉の暴力については、フロア会議にて、その都度職員間で話し合い、利用者さんの自由な行動生活が守られるよう努力している。	入居者の様子を察知し、さりげない声かけなどで安全を確保し、日中施錠をしない自由な暮らしを支えている。抑圧感を招く言葉づかいについて、フロア会議や日々のケアの中で共通認識を持つようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の外部研修は、随時受けている。入浴時の全身チェック、及び夜勤者が勤務に入る時と退所時のチェックを重ね実行する事により、早くアザ等を発見する事が出来る。しいては、利用者さんの安全を守ることに繋がっている。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名：白樺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年、権利擁護の外部研修を受けているが、今年は申し込みはしたが、受けられず。今の利用者については、後見制度を利用する必要性の人はいず、学ぶ機会を得ていない。今後、機会をもうけたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、家族と一緒に多方面から、ゆっくり時間を掛けて話し合っている。退所時も同様であり、特に移転の際は持ち物に至るまで、きっちり処理している。亡くなられた家族様から、感謝の気持ちが多く届けられている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様に関しては、月一回の利用料支払い時、又、電話にて、要望が入る場合がある。必要性に応じ、朝、夕の申し送り、又、月一度のフロア会議にて話し合いの場を設け、運営に反映させている。	高齢や多忙のため、家族がホームの行事や会議に参加することが難しい。ケアプランの確認や利用料支払いの際に、家族の意見を聞くようにしているが、要望や意見が聞かれることはあまりない。	家族が遠慮なく話せるよう、信頼関係の構築が望まれる。来訪時には、家族の言葉をゆっくりと聴く姿勢を持ち、意見や要望を運営に活かしていくための取り組みに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロア会議、前日迄に、提案書を提出し、利用者一人、一人について時間を掛け検討している。	双方の管理者とユニットの全職員が出席するフロア会議はユニット毎に開かれている。人員配置や物品購入など職員から出た運営に関する意見は即検討し、結果を出すように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に関しては、年二回、自己評価があり、それに基づき、管理者が評価、向上心がもてる様に、話し合いを持っている。月2回の希望休に留まらず、出来る限り、仕事、趣味等両立出来る様に、柔軟な勤務表を組むようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量、必要性に合った、認知症サポート和歌山の研修の参加、働きながら、ヘルパーの2級免許の取得援助、介護福祉士の実技試験のサポート等モチベーション向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で、同業者と接する機会はあるが、相互訪問とまでは、行っていない。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名：白樺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまで、空き室を利用し、ショート利用等で馴染みの関係を築けており、入所がスムーズな場合がある。又、家族様も様子が解っており、安心して頂ける様である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、申し込みの段階で、要望等に傾聴するように努めている。サービス前には自宅を訪問し、ケアマネ同席の基、不安要素をお聞きし、スムーズに入所につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時には、サービス担当者会議に同席させて頂き、家族、本人が、本当に必要としている支援を感じ取るようにし、柔軟な対応が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普通の家庭生活を意識し、家事の洗濯干し、たたみ、食器拭きなど、出来る事はお願いし、職員と共に行い関係を築いている。又、利用者の一人、一人の体調に合わせたコミュニケーションを考え、共に楽しい一日となれる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事(夕涼み、クリスマス会)等には声を掛け、共有の時間を過ごして頂けるようにしている。面会時には、ホーム内での様子や変化を伝え、外出支援や、受診支援等をお願いしながら、共に支えあう事が出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との外出や、帰省、面会が主になっているが、会話の中で家族様の名前や、故郷の話をする事で大切な人への思いや、大切な場所を忘れる事が無いように努めている。	今は空き家となった自宅で家族と過ごせる時間を設けたり、普通だった学校を訪ね校歌を歌ったりと、個々の思いに添えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中の場面、場面で、利用者同士が良い関係を保つ事が出来る様に、さり気なく支援出来る様に努めている。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名：白樺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設の入所申し込み支援等、必要に応じ、家族様と連絡を取り、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や行動にて、本人の意思を出来る限り汲み取り、快が多く見られるような生活を送って頂きたいと心掛けている。ケアプランにもあげ、職員皆で取り組めるように努めている。	個人毎の担当職員を中心に本人の思いの把握に努め、全員で共有できるように、本人の言葉や、ふとした動作などを日誌の中に青字で記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用始まる前に、家族様からの情報により、フェイスシートを皆で共有、又、普段の生活の中から、利用者自身からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の記録、業務日誌、日々の申し送り、フロア会議等で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を主に、月一回のフロア会議にて課題を提案し、話し合い、介護計画に反映作成している。	担当職員も加わって、身体面・医療面に加え精神面についてのケアにも目を向けて、個別の見やすい計画を作成している。月2回実施状況の把握を行い、フロア会議で検討し、3か月ごとの見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	医療関係は赤字、ケアプランに沿った事、本人の訴え等は青字、その他は黒字にて記録、利用者の一日の暮らしを個別に詳細に記録するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、利用者の心身の状況やニーズに応じて、買い物支援や、受診の支援、訪問理容、外出理容等、柔軟な支援に取り組んでいる。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名：白樺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会に参加、地元幼稚園の来所、今年より、シニアカレッジさんによる、定期的のボランティア活動の支援を受け、利用者、職員共より良い関係が築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医で継続している利用者や自施設の協力医にかかっている利用者、本人や家族様の意向にてかかりつけ医を決められているが、適切な医療を受けられるように、本人、家族様、医療のパイプ役になれる様に努めている。	かかりつけ医は本人・家族の希望に添えるよう支援している。受診の同行送迎は原則家族が行うが、事業所が行うこともある。往診の主治医も増え、訪問看護も使って、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の介護で築いた異常があれば、些細な事であっても申し送り事項に記し、担当の看護師に報告し、支援を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は必ず、病院に出向き、各関係者と打ち合わせ等を行っている。スムーズに退院、受け入れが出来る様に病院関係者にも協力を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時には、かかりつけ医の往診をお願いし、より良いベストな支援が行えるように、家族、医師、職員と話し合いを持ちながら進めている。	本人に関係するメンバーがチームで話し合い、最終的に家族が決める方針である。現在、重度の入居者を主治医や訪問の看護師と連携しながらケアし、当初不安のあった職員も経験を重ねる中でスキルアップしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練の実践は行っていないのが現状であるが、新人職員は、消防本部主催の救急講習会に参加するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度のフローア会議には必ず議題としてあがってくる。避難ルートの確認などしている。又、地域の消防団との協力の話しも上がってきており、実践に繋げるべく話を進めている。	職員は法人の合同訓練に参加しているが、ホームの建物での訓練は行っていない。備蓄も計画しているが、現段階ではまだ用意されていない。東日本大震災後、地域との具体的な協力体制について話合うようになった。	「備えあれば憂いなし」の通り、近い将来に向けた早急な取り組みが求められる。避難訓練の具体化など目標計画を作成し、消防署や法人グループと連携して行われる事が望まれる。

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名：白樺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉は丁寧に、各利用者さんは、「人生の先輩である」と位置づけ尊敬の心を忘れず、落ち着いて接する事を心掛けているが、馴れ合いに面も見られ、常に重きにおく必要がある。	職員は入居者を「人生の先輩として敬う」ことを理解して日々接するように気を付けているが、親しく慣れすぎたり、また、してあげているの気持ちが見られる場面もあり、その都度注意している。	全職員が、基本である『尊厳と権利擁護』の意識統一を図れるように、年間研修計画を立てるなどして、知識の共有の機会が増えることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にしっかり寄り添い、観察を怠らない事で見えてくる本人の希望をしっかり受け止め実現できるように日々努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寄りそって話を聞くことで、今思っておられる事をわかるよう努力を重ねている。寄り添うという事を最大の目標としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節毎の衣類の入れ替えは担当スタッフの重要な仕事となっている。持っておられる、衣類の組み合わせを良く考え、その人らしさを表現出来る様に、努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事タイムには適した音楽を流すなどし、楽しいムード作りを心掛けている。その日のメニューの説明をしたり旬の食材を使うことで食の楽しみを最大限に引き出す工夫をしている。食事の後片付けは、協力を依頼することもある。	店が遠いので、隔日に入居者2人と一緒に食材の買い物に行き、準備や片づけのなかで個々の力を活かす支援をしている。近くで摘んだ山菜が食材になり、昔話などしながら全員で食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は各個人別に正確に記録をとっており、状態や、希望に応じて、ご飯、粥、キザミ等にし、美味しく食べて頂ける様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。ケア忘れがないように、各利用者、毎日のケースに実施担当者のサインを記入する形式をとっている。		

【事業所名】グループホーム幸楽の里 ユニット名：白樺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや、動作の察知により、トイレ誘導を行い、又、個々に合った、パットを検討することにより、気持ちよく過ごして頂けるよう日々、職員間で検討している。	排泄の自立支援への取組みで、おむつは使用していない。布パンツ・リハビリパンツ・パッドを個々の状態に合わせて使用しており、実費負担の削減にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や、食材に繊維食品を取り入れ、自然排便に努めているが、排便が見られない時は、主治医指示の基、服薬調整を行い、定期的な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に、二日に一度は入浴して頂き、午前、午後と分け、ゆっくりと、タイミングに合わせ会話を楽しんだり、音楽を流したりしながら、「気持ちよかった」の言葉をいただける様な入浴支援に努めている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、日中に気の合った者同士や、重度の入居者には二人介助で対応しており、個々の状態に合わせてゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自ら、動く事の出来ない人は、タイミングを見て、お昼から、休息出来る様に支援している。眠る前に温かい飲み物の提供、足浴を行い、眠りに付き易い環境づくりに努めている。布団は、適度に、天気干しを行い、衛生にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースを用い、表に薬の特徴等を記入したものを貼り、把握しながらも、服薬に間違いが無いが職員同士でも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、日々の生活の中で、お手伝いをお願いしている。又、出来る限り、寄り添うことの出来る時間を作れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外への散歩は、希望に応じて出かけられる様に、支援している。イベントや遠足等は、ボランティアや家族の協力のもと、出かけている。	目標達成項目として掲げ、年間行事計画を立てている。担当者を決めて近場の花の名所巡りや高野詣りを実現できた。また、地域行事への参加や外食の機会も増え、入居者と職員の楽しみ作りに積極的に取り組んだ。	

【事業所名】グループホーム 幸楽の里 ユニット名：白樺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の個人管理はされていないが、家族様より預かっているお金を使い、支払いをされる事はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿う形で、電話をかけ、家族様とのコミュニケーションが摂れる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな山間地にあり、居間より、季節の移り代わりが良くわかる。季節の花を飾る事で、視覚や、臭覚で楽しんで頂くことや又音楽を流す事と快く過ごせる様に努めている。	玄関には家族が毎日花を活け、窓から見える緑の木々が心を和ませる。リビングの飾り付けも程良く、家庭的で落ち着ける雰囲気となっている。使い心地の良いテーブルやソファが適所に配置され、居心地良く過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人とソファで話をされたり、テレビを見られたり、一人でゆっくりしたい場合は、お部屋で休んでいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に出来る限り、使い慣れた物を持って来て頂くように、お話させて頂いている。使い慣れた、鏡台や仏壇を持参されている方もありますが、少し殺風景な部屋もあります。	居室は広く、それぞれの馴染みの物が置かれて生活が感じられる部屋となっている。ベッドが使い辛い人には居間の和室を提供して就寝してもらうなど、本人に合わせた支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には、表札がかけられており、雰囲気、自らの部屋も把握されている様子。自らトイレに行かれる方は、トイレの場所もある程度理解されている。		